

# 公務災害防止事業の推進

## 安全管理セミナーを実施して

富山県氷見市消防団

### 1 はじめに

氷見市は富山県の西北部にあって、能登半島の東側基部に位置し、豊富な海産物が獲れる「青い海」と変化に富んだ「みどり豊かな大地」を有し、海の幸山の幸に恵まれています。

特に日本海側有数の漁港である氷見漁港には、日本海に生息する魚類の半数以上がいて言われている富山湾から、四季を通じて156種類ものキトキト（「とても新鮮だ」という意味の富山弁）の魚が、海外で技術指導も行ってい

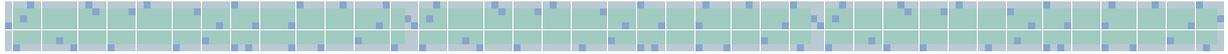
る定置網漁と呼ばれる地球にやさしい漁法で水揚げされ、初夏の「マグロ」、冬の「寒ブリ」など全国的にも有名です。それと「氷見いわし」は、あの広辞苑にも掲載されています。

また、日本で最初に発見された洞窟住居跡「大境洞窟」、日本海側最大の前方後方墳「布尾山古墳」や万葉の歌人大伴家持ゆかりの史跡など、歴史のロマンにも満ちあふれた土地でもあります。

景観にも恵まれており、海越しに3,000m級



氷見魚市場



氷見の寒ブリ

の山々が見える地域は世界中でも数箇所といわれ、海上に浮かび上がる立山連峰の大パノラマは見る人を圧倒します。

さらに、近年は市内各地で温泉が湧出したことから「能登半島国立公園・氷見温泉郷」の名称でPRに努めています。

## 2 氷見市消防団の沿革

戦後の昭和22年9月4日に氷見町警防団を解消し、氷見町消防団が発足、昭和27年8月1日市制施行により氷見市消防団に改名されました。その後10村を編入し、昭和38年の消防組織改正で、現在の分団数20分団、団員定数750名となりました。

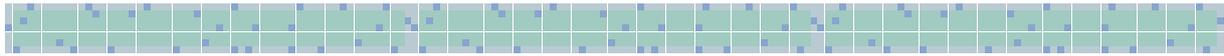
さらに、平成17年10月には定数が770人に増員され、当市消防団に初の女性消防団員11名が誕生し、現在に至っています。

## 3 安全管理セミナーを実施した経緯

氷見市消防団では、以前から新入団員、連絡員、機関員、班長、幹部の各研修会を消防本部の担当者を講師に定期的に開催するなど、消防団員の安全管理について取り組んでまいりました。

しかしながら、過去5年間で消防団員の公務災害が8件発生しており、また事故には至らなくても、災害現場で「危ない」と感じる場面や、ヒヤリハット事例が多くあり、更なる安全管理が必要と感じておりました。

そこで今回、消防基金の公務災害防止研修事業を活用し「安全管理セミナー」を実施することで、専門家の講師からご指導を仰ぎ、消防団員に訓練中や災害活動中はもちろん、日常生活における事故や健康面も含めた安全管理に対する理解を深めてもらうことにしました。



団長あいさつ

#### 4 安全管理セミナーを実施して

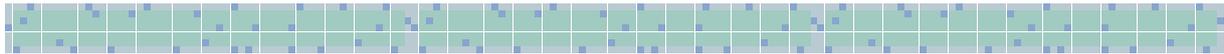
そのような経緯から、平成23年2月20日、「氷見市消防団幹部研修会」の一環として副分団長、部長81名が参加し、消防基金から河村信利氏を講師にお迎えして安全管理セミナーを実施いた

しました。

市内20分団の管理監督者的な立場であり災害現場で指揮を執る消防団の幹部にとっては、個別の活動事例により活動に潜む危険性やそれらに対する安全管理の方法、「危険を回避するに



講演の様子



受講の様子

はどのようにすべきか」ということなどを具体的に学ぶことができ、大変有意義なものになりました。

これを機会に、受講者がそれぞれの分団で各団員の安全管理に対する意識を一層高めてくれたものと信じております。

## 5 今後の取り組みについて

氷見市消防団では、今回、安全管理セミナーを受講したことで安全管理の重要性が再認識され、各研修会の中に新たに新任分団長研修会を開催することとなりました。

消防団員が活動中に受傷することは、あってはならないことです。公務災害事故を未然に防ぎ、減少・撲滅させることは消防団本部の責務であり、それこそが地域の安全・安心を守るための前提となります。

事故を無くす第一歩は危険を認識することから始まります。現場活動を含め、日常生活においてもいち早く危険を予知し、事故防止に努めなければなりません。崇高な消防団の使命達成のため、団員一人ひとりが安全管理についての重要性を理解して活動できるよう、さらに訓練と研修を重ねていきたいと考えています。